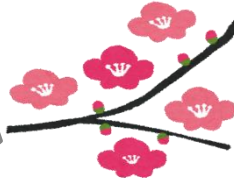


# かわらばん



西東京市立柳沢中学校

第1学年便り

令和6年2月22日

No.44

## 考えたことはある？ 友達って何だろう？



2月はふれあい月間のため、前回に引き続き「人間関係」を軸に、今度は「友達」について考えてみようと思います。皆さんは、「友達って何だろう？」という質問に対して、どんなことを答えますか？「一緒に遊んだりしゃべったりする人」「気が合う人」「何でも相談できる関係性」など、答えは様々だと思います。ビジネスニュースサイト『東洋経済オンライン』の中に、作家・演出家のこうかみしやうし鴻上尚史さんによる人生相談のコーナーがあります。そこには、こんな相談が投稿されていました。

**「学校のグループ内で私は最下層扱い。本当の友達がほしいです（17歳・女性 あさひ）」**

この相談者は女子高に通っている高校2年生の生徒だそうです。この悩みに対して、鴻上さんは次のような回答をしました。その回答を一部抜粋して紹介しようと思います。

「どんな人と友達になりたいですか？」

例えば、「気が合う人」。なぜ気が合うのでしょうか？気が合うのは理由があると思いませんか？同じアーティストが好きとか、趣味が似ているとか、興味のあるものが近いとか。僕は人間関係は「おみやげ」を渡し合う関係が理想だと思っています。「おみやげ」って言うのは、あなたにとってプラスになるものです。楽しい話でもいいし、相手の知らない情報でもいいし、お弁当のおすそ分けでもいいし、優しい言葉でもいいし、なぐさめでもいいし、マンガやDVDを貸してあげるのでもいいし、勉強を教えてもいいし。とにかく、あなたがうれしくなったり、助かったり、気持ちよくなったりするものやことです。AさんとBさんがいて、いつも、Aさんは「おみやげ」をBさんに一方的に渡すだけで、Bさんからは何もお返しがなかったとしたらどうなるか、想像してみてください。AさんはいつもBさんに、面白い話をしたり、ネットの耳寄りな情報を教えたり、元気づけたり、オシャレ小物をあげたり、グチをきいてあげたりしている。Bさんは、ただそれを受け取り、喜び、聞いているだけ。Bさんは、何もAさんに渡してない。そういう関係は長続きしないと僕は思っているのです。そして、恋愛も友情も、お互いが「おみやげ」を渡し合っている限り、関係は続いていくと思っています。でも、どちらかが「おみやげ」を受け取るだけで、何も返さなくなったら、その関係は終わるだろうと思っているのです。利害関係とは、ちょっと違います。「おみやげ」関係は、もっと人間同士の受け渡しというか、大きなことから小さいなことまで、物質的なことや精神的なこと、気持ちまで含んだ全体的な関係のことです。僕は「おみやげ」関係が、人間関係の基本だと思っているのです。残酷な考え方だと思いますか？

でも、あさひさんに友達がいる、その人はいつもあさひさんに頼って、いつもグチを言って、いつも相談をもちかけているとしたらどうですか？あさひさんが自分の相談をしてもちゃんと聞いてくれなくて、あさひさんの気持ちじゃなくて、自分の気持ちばかり言い続けたら、あさひさんは友達を続けたいと思いますか？お互いがちゃんと「おみやげ」を渡し合う関係にならないと友達を続けられないのです。僕は大学時代、文学好きの友達に会う前は、必死になって最新の話題作を何作か読みました。そして、「あいつならこれを気に入るんじゃないかな」と思う本の話をしました。友達は、目をキラキラさせながら、僕の情報を喜んでくれました。それは僕なりに考えた「おみやげ」でした。

僕は中学時代、「友達のふりをする苦痛」と「ひとりのみじめさ」をてんびん天秤にかけて「ひとりのみじめさ」を取りました。グループから抜けて、ひとりでもいいと決意したのです。それでも、何人かはときどき話しかけてきてくれました。ひとりになってさびしい時に、話しかけてくれるだけで

も、それは僕にとって「おみやげ」でした。そういう時、自分はどんな「おみやげ」が渡せるだろうかと考えました。相手にとって何が「おみやげ」になるかを考えることは、つまり、相手を理解しようとすることです。音楽に興味のない人にいくら最新の音楽事情を話しても、それは「おみやげ」になりません。自分が興味あることと、相手が興味あることが違うことはよくあります。相手のことを思って「おみやげ」を渡すうちにそうやって、考えながら「おみやげ」を渡しているうちに、ひとり、本当の友達ができました。たったひとりでしたが、さびしさもみじめさもなくなりました。じつは、彼も「ひとりのみじめさ」を選んで、グループから抜けた人間でした。あさひさん。これは僕の場合です。あさひさんは「友達のふりをする苦痛」と「ひとりのみじめさ」を自分で天秤にかけないといけません。焦らず、ゆっくり考えてください。そして、「この人と本当の友達になりたい」と思う人がいたら、「自分はどんな『おみやげ』を渡せるんだろう」と考えるのです。「おみやげ」は押しつけるものではありません。相手がいやがるものでもいけません。相手がもし、あさひさんの「おみやげ」を受け取る気持ちがないようなら、あきらめるしかありません。ただ、その人がくれた「おみやげ」に感謝していること、うれしかったことは伝えましょう。相手への「おみやげ」を考えることは、人間を理解しようとすることです。それは決してムダな努力ではないです。その努力は、あさひさんを成熟させます。人間を見る目を養い、相手の気持ちを察することができるようになります。そんな素敵な人は、みんなが友達になりたいと思う人なのです。

《参考》「東洋経済オンライン」より <https://toyokeizai.net/articles/-/620708>

(上記のサイトで全文読むことができます)

読んでみて、「たしかにそうだな」と、共感することはありましたか？ 上記の回答は、あくまでも一つの考え方です。先ほども言った通り、「友達」には色々な考え方があり、絶対的な答えは存在しないと思います。今ある人間関係が居心地の良い関係ならば、ぜひその関係性を大切にしてください。しかし、人間関係で悩むことがあるのならば、時には**一人の時間を作って、自分の時間を過ごすことも大切**だと感じます。先生も中学・高校時代、休み時間、一人で本を読んでいたりと、勉強をやっていたりすることがありました。しかし、ずっと一人の時間を過ごしていたわけではなく、周囲の人が「何読んでいるの？」と声をかけてくれたことがありました。「こういう本だよ」と紹介すると、意外と話が盛り上がり楽しかった思い出があります。中学生の年代になると、どうしても「周りの目が気になってしまう」「周りに合わせようとする」ことはよくあります(教育相談の心理アンケートの部分でも多くの方が○を付ける項目の一つです)が、周りにばかり合わせようとせず、「**自分自身を大切にすること**」や「**自分磨きをすること**」も大切だと思います。また、東進ハイスクールの講師でタレントの林修先生の番組で友達関係に悩む人たちに向けて、林先生は「**本当に大切な人を大切にすればきっと幸せになれる**」と言っていました。先生もまさにその通りだなと共感した覚えがあります。

前は「言葉」について、そして今回は「友達」について考えてみましたが、改めて2年生に向けて、良好な人間関係作りを築き上げられるようにしていきましょう！



遅くなりましたが

## スキー教室作文特集



さて、スキー教室から早いもので1か月が経とうとしています。少し遅くなりましたが、皆さんが書いた作文を紹介したいと思います。

### スキー教室を振り返って

A組 A H

私はスキー教室で上達する楽しさを学びました。

中学生になり、初めての宿泊行事であるスキー教室。私はとても不安でした。上手にスキーがで

きるか、部屋の友達と仲良くできるか、私はそういう不安をなくすため、実行委員会に入りました。みんなが楽しめるようなスキー教室にできれば、不安より楽しさが勝つと考えたからです。

スキー教室実行委員会では、ルールを決めたり、レクを企画したりと色々なことをしました。実行委員会があるごとにスキー教室が近づいてきていると実感し、ワクワクしながら準備を進めていきました。また、家でもスキー教室の荷物準備をしたり、レクの企画書を書いたりとやることはたくさんありましたが、自分もみんなも楽しめるスキー教室にしたいという思いで頑張りました。

そして迎えたスキー教室。一日目のスキーではあまり上手いかず、たくさん転んでしまいました。しかし、二日目、三日目と日が進むごとに上手く滑ることができるようになりました。また、レクもみんなで楽しく盛り上がるのができたと感じました。

私は今回のスキー教室で上達する楽しさを学びました。私はもともと自分から進んで何かに挑戦することは少なく、今できるもので満足していました。しかし、これからは苦手なことにも自ら挑戦し、上達できるよう頑張っていきたいです。

## 思い出のスキー

B組 A Y

僕は3日間のスキー教室がすごく楽しかったです。それはみんなの団結力や行動力がまとまったからこそ生まれた楽しさだと思いました。この3日間を振り返ると、中学校生活で、こんなに楽しい行事はないのではいかと思いました。

1日目は朝早く学校に集合し、バスに乗って菅平高原に向かいました。バスの中では実行委員が考えたバスレクをやりました。イントロクイズやいろいろなゲームをやりました。特にイントロクイズでは一番多く当てた人は好きな曲を流していいというルールだったので、僕はかなりやる気ができました。僕が一番多く当てることができたので、好きな曲を流すことができて良かったです。

宿舎につき、スキーの準備をし、スキー実習の時間になりました。最初は、かなり久しぶりだったので、少し感覚が鈍っていました。でもやり始めたら、だんだん感覚が戻ってきました。楽しいまま初日のスキーを終えました。それから夕食を食べ、次に学年レクがありました。僕は早口選手権に出る予定だったので、少し緊張していました。僕は2周連続で早口言葉を言えたのですが、最後のお題があまりにも難しくて言えませんでした。この学年レクも良い思い出になり、良かったです。

2日目は、3つの時間帯にわけてスキーをしました。僕は曲がるのが苦手です。どうすればいいのか、と思って聞きました。膝を曲がりたい方向に曲げて滑るといい、と言われてやってみたらしっかり曲がることができました。そしてナイタースキーをしました。リフトで一番上まで上がったとき、景色が良かったです。

3日目、最後のスキー。全力で楽しもうと思いました。2時間半の実習でしたが、あっという間でした。昼食を食べて帰る準備をし、宿舎を出ました。さみしかったです。今後は家族とスキーに行ってみたいです。本当に3日間スキーができて幸せでした。



## 楽しさであふれたスキー教室

C組 H N

1月25日、私はスキー教室に行った。1日目、行きのバスでは楽しみすぎて何時間もバスに乗っていたはずが、ほんの一時間位に感じた。そして、宿舎到着。3日間お世話になる部屋は思っていたよりきれいで広かった。「どんな3日間になるんだろう」とわくわくした。お弁当はスキー前のおいしいエネルギー補給になった。スキーでは、板をはく時に転んだり、後ろに滑って行って転んだり、準備運動で転んだり、転びっぱなしのスキーだったが、「また明日もやれる」が嬉しいと思えるくらいに楽しいものだった。

2日目、「今日が良い日にならないわけがない」と思いながら起きた。2日目のスキーからリフトに乗った。ゆらゆらしていて楽しかった。スキーは思っていたより滑られるようになっていて、自分で自分に驚いた。そしてナイター。昼にも来たはずの場所が違って見えた。ゲレンデの上からの景色は、暗い中にスキー場の明かりや遠くの車の明かりたち、霧のような白いふわふわしたものが浮いていて、とてもきれいで、「これが絶景か」と思うほどだった。

3日目、最終日の朝は「あと1回スキーしたら帰らないといけないのか」という「悲しい」「帰りたくない」「スキー楽しみ」「早くスキーしたい」といういろいろな気持ちが合わさった朝だった。最後のスキーは何と1回も転ばずに滑りきれた。「3日間本気で頑張れば人はこんなに成長できるのか」と実感した。スキーが終わり、着替えてバスに乗った。バスで見た『千と千尋の神隠し』の最後の『いつも何度でも』が体にしみた。

スキー教室は、家に帰ってから「スキーしたい」と何回も言うくらいにとっても楽しいものだった。それは、私たちが入学する前から企画してくれた先生方、実行委員の人たち、インストラクターの上ちゃん先生など、多くの人たちのおかげです。本当に最初から最後まで楽しさであふれたスキー教室をありがとうございました。

### ■来週の予定（2/26（月）～3/1（金））

月 日	組	1	2	3	4	5	6	備 考
2/26 (月)	A	美術	英語	技術	理科1	国語2	数学	
	B	国語1	技術	英語	国語2	数学	社会	
	C	体育	国語2	英語	技術	数学	理科2	
2/27 (火)		準備学習	理科	社会	音楽	\		学年末考査（1日目） ※給食なし
2/28 (水)		準備学習	国語	英語	技術家庭	\		学年末考査（2日目） ※給食なし
2/29 (木)		準備学習	数学	体育	総合	\		学年末考査（3日目）
3/1 (金)	A	美術	体育	理科2	英語	数学	\	
	B	数学	理科2	体育	社会	英語		
	C	数学	社会	体育	理科2	英語		

※予定の変更等は、朝・終学活等で連絡します。